海外研修便り－3

東7下病棟　看護師　中尾　知子

こんにちは。7月に入り、ベセスダは本格的な夏を迎えています。こちらの夏は高温・高湿といわれ、日中の気温は30℃を越えますが、日本のような梅雨はなく、建物内はどこも冷房が効いているので快適に過ごせます。週末は、NIHに所属する日本人の先生のテニス会に誘って頂いたり、ワシントンDCに観光に行ったり、こちらでのゆっくりした生活を楽しんでいます。

さて、NIAAAでの研修も残り1ヶ月となりました。
私の最近のスケジュールは、週に2～3回Vijay先生のラボの研究セッションに参加しながら、残りの時間を病棟プログラムの参加や資料の翻訳に充て学びを深めています。
今回は、NIAAAで行われている研究についてお伝えします。Vijay先生のラボでは、アルコール依存症の新たな医薬品の発見・開発のため、アルコールの薬物動態や薬力学を特徴づける研究や、人のアルコール自己投与パターンをテストする実験方法の開発などが行われています。実際の研究では、コンピューター管理のもと正確なアルコール量を投与する点滴方法を用い、被験者に希釈アルコールを持続注入しながら定期的に採血や心理検査などを行い、人の薬理学的反応を評価しています。
私の役割は、呼気アルコール濃度やバイタルサインの測定、各テストのセッティング等になります。パソコンのデータ入力や被験者へのテスト説明など緊張する場面もありますが、先生や被験者の皆さんはとても親切で、笑顔で協力して下さいます。

病棟では、飲酒問題をもつ人々の評価と治療を目的とした研究が行われています。具体的には、アルコール使用障害があり研究への同意が得られた入院患者に対し、入院プログラムとして治療（認知行動療法やカウンセリング等）を提供しながら、血液検査やMRI、心理テストなど様々な検査を行います。この研究は、他の研究のためのスクリーニングとしての役割もあり、入院患者の離脱期が落ち着くと、他の研究参加について説明され、同意が得られれば、治験に関連した追加の研究が行われます。集められた臨床データは、新たな医薬品や治療形態の臨床試験のために用いられます。
病棟看護師の研究に関する役割は、採血など研究のサポートに加え、患者に研究手順をわかりやすく伝え理解を促すこと、患者の不安軽減を図ること等になります。病棟では患者の研究に関する質問に対し、看護師が時間をかけ丁寧に関わっている場面を良く目にします。
また、病棟プログラムのなかには研究に関する勉強会があり、入院患者が自分の受けている研究ついて理解を深められるよう、被験者の権利や治験の役割などについて講義が行われています。

その他NIAAAでは、外部の研究者を招いたセミナーや各部門の研究報告、最近の論文をもとにした勉強会などが頻繁に行われ、アルコール依存症の研究に応用できないか活発な意見交換が行われています。
ミーティングの内容は専門的な用語ばかりで私にはなかなか理解できませんが、プレゼンのしかたや資料のつくりかたは見ているだけで勉強になります。また、NIAAAでは日々こうして新しい研究のアイデアが生み出され、将来のアルコール依存症治療の改良に向け様々な取り組みが行われていることを肌で感じることができます。
今回たくさんの方々のご協力により、このような貴重な経験をさせて頂いたことを心から感謝致します。
残り1ヶ月、悔いのないよう頑張ろうと思います。